農試第１５０－２号
令和８年６月３日

各関係機関の長　様

福井県農業試験場長

農作物病害虫発生予察予報の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先　福井県農業試験場病害虫防除室
ＴＥＬ　0776-54-9315
ＦＡＸ　0776-54-5106
E-mail　byogaichu-boujo@pref.fukui.lg.jp
福井県病害虫防除室　検索

令和８年農作物病害虫発生予察予報第４号

６月の気象概況
　期間の前半は、天気は数日の周期で変わるでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。気温は高く、降水量はほぼ平年並みの見込みです。

［水稲関係］

病害虫名　葉いもち
１　予報内容
　発生時期：全般発生開始期は平年並みの６月６半旬
　被害程度：少発、ただし山間、山沿いの常発地では中発
　発 生 量：平年並み、前年より多い
２　防除対策および防除上の注意点
（１）圃場に放置されている補植用苗は、葉いもちの伝染源となるため、早急に除去する。除去した苗は畦畔に放置せず、土中に埋める。
（２）葉いもちが多発生する恐れのある圃場では、６月10日までに必ず予防粒剤を施用する。施用時期が遅れると、薬剤の防除効果が劣るので注意する。粒剤の施用は湛水状態で行い、自然落水させる。施用後１週間程度はかけ流しをしない。
（３）粉剤や液剤での防除適期は、全般発生開始期の７日後となる。防除時期が遅れると効果が劣るので注意する。また、薬剤を散布した圃場でも、上位葉に新たに病斑が見られた場合は、散布10日後に追加防除を行う。
（４）苗箱処理剤や予防粒剤を施用した圃場では、基本的には防除の必要はない。ただし、発生が見られた場合には、直ちに粉剤または液剤で防除する。
（５）直播栽培等熟期の遅い作型では、葉いもちが発生しやすいので的確に防除する。
（６）苗いもちの持込みがあると早期にほとんどの株に発生が見られるようになるので、発生を見たら直ちに予防と治療効果を兼ね備えた薬剤を散布する。その後の上位葉に新たに病斑が見られた場合は追加散布を行う。

病害虫名　紋枯病
１　予報内容
　発生時期：初発は平年並みの６月６半旬
　被害程度：少発
　発 生 量：平年、前年よりやや多い

２　防除対策および防除上の注意点

（１）前年発生が多かった圃場では発生しやすいため、箱粒剤、種子塗抹剤などによる本病対象の防除を行っていない場合、粒剤による本田防除を必ず行う。粒剤の防除適期は薬剤により異なり、施用が遅れると効果が落ちるので注意する。

（２）茎数が多くなると発病に好適となるため、適期に中干しを行い、過剰分げつを抑える。

病害虫名　ニカメイガ

１　予報内容

発生時期：成虫発生最盛期は５月４半旬。幼虫加害初期５月６半旬頃で平年よりやや早い

被害程度：少発、局中発

発 生 量：平年、前年より多い

２　防除対策および防除上の注意点

（１）イネに白穂等の減収をもたらすのは、主に７月中旬以降に発生する世代であるが、第一世代の発生が多いと、第二世代の発生も多くなるので、常発地では必ず防除する。

（２）防除適期（液剤：６月２～７日）は、例年よりやや早まるので、防除が遅れないように注意する。

（３）年次により、越冬世代成虫の発生がだらつく場合があるので、防除しても被害が見られる場合、追加防除を行う。

病害虫名　イネミズゾウムシ

１　予報内容

発生時期：幼虫の発生最盛期は６月５半旬頃

被害程度：少発、局中発

発 生 量：平年より多く、前年よりやや少ない

２　防除対策および防除上の注意点

（１）直播栽培で被害が大きくなる恐れがあるので、よく観察し、被害の恐れがある場合は早期に防除する。

（２）中干しを徹底し、幼虫の発生を抑制する。

（３）箱施薬をしていない場合、最盛期の成虫密度が30頭／100株以上であるか、箱施薬をした場合でも80頭／100株以上であるならば、６月上旬に粒剤を散布する。粒剤散布後は１週間程度湛水する。

病害虫名　イネゾウムシ

１　予報内容

発生時期：成虫の発生最盛期は６月２半旬頃

被害程度：少発、局中発

発 生 量：平年より多く、前年よりやや多い

２　防除対策および防除上の注意点

（１）多発時は薬剤散布を行う。

（２）低温時は成虫が水中に潜んでいることが多いため、薬剤散布は晴天時の日中に行うのが有効である。

病害虫名　イネクビホソハムシ（イネドロオイムシ）

１　予報内容

発生時期：ふ化最盛期は６月３半旬頃、被害最盛期は６月４半旬頃

被害程度：少発、局中発

発 生 量：平年よりやや少なく、前年よりやや少ない

２　防除対策および防除上の注意点

（１）発生が多い場合は、ふ化最盛期の６月中旬に薬剤を散布する。

病害虫名　イネヒメハモグリバエ

１　予報内容

発生時期：加害盛期は６月２半旬頃

被害程度：少発、局中発

発 生 量：平年より少なく、前年より多い

２　防除対策および防除上の注意点

（１）育苗箱施薬をしていない場合、被害が大きくなる恐れがあるので薬剤防除を検討する。

（２）直播栽培は被害を受けやすいので、薬剤防除を検討する。

（３）深水を避け、産卵場所となる浮き葉、流れ葉を減らす。

［ダイズ関係］

病害虫名　紫斑病

１　予報内容

被害程度：少発

発 生 量：平年より多く、前年並み

２　防除対策および防除上の注意点

（１）購入種子などの健全な種子を使用し、播種前にフルジオキソニルを含む種子塗抹剤による塗抹処理を行う。

（２）発病した株は早期に抜き取る。

病害虫名　茎疫病

１　予報内容

被害程度：少発

発 生 量：平年、前年よりやや多い

２　防除対策および防除上の注意点

（１）播種前にメタラキシルMを含む種子塗抹剤による塗抹処理を行う。

（２）石灰質資材を施用し、土壌酸度を矯正する。

（３）溝切り、補助暗渠の施工、培土など圃場の排水促進に努める。

（４）発病した株は早期に抜き取る。

病害虫名　フタスジヒメハムシ

１　予報内容

発生時期：越冬成虫発生最盛期は６月上旬

被害程度：少発、局中発

発 生 量：平年より多く、前年並み

２　防除対策および防除上の注意点

（１）防除効果の高いチアメトキサム剤の種子塗沫処理を行う。

［野菜関係］

野菜名	病害虫名	予　報　内　容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
トマト	疫　　病	6月上旬	少　発	平年：並み 前年：並み	1)被害茎葉は早期に除去し、圃場外で処分する。 2)予防散布を行う。
	青　枯　病		少　発	平年：やや多 前年：やや多	1)過度の灌水を避ける。 2)被害株は早期に除去する。
	葉かび病	6月上旬	少　発 （局中発）	平年：並み 前年：やや多	1)過度な灌水をせず換気に努め、過湿を避ける。 2)肥料切れや着果負担による草勢低下は発病を助長するため、適正施肥に努める。 3)予防散布を行う。 4)薬剤は葉裏にもよくかかるようにする。 5)同一系統薬剤の連用は避ける。
	灰色かび病	6月上旬	少　発 （局中発）	平年：やや少 前年：やや多	1)過度な灌水をせず換気に努め、過湿を避ける。 2)肥料切れや着果負担による草勢低下は発病を助長するため、適正施肥に努める。 3)被害果や茎葉は早期に除去し、圃場外で処分する。 4)同一系統薬剤の連用は避ける。
キュウリ	うどんこ病		少　発	平年：やや少 前年：多	1)多肥栽培を行わず、適正な施肥管理を行う。 2)同一系統薬剤の連用は避ける。
	べ　と　病		少　発	平年：やや多 前年：多	1)圃場排水をよくし敷きわらを行うとともに、通風、採光をよくし、過湿を避ける。 2)肥料切れしないよう、適正な肥培管理を行う。 3)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 4)同一系統薬剤の連用は避ける。
スイカ	炭　疽　病	6月下旬	少　発 （局中発）	平年：並み 前年：並み	1)敷きわらを行うとともに、過繁茂を避けて、通風をよくする。 2)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 3)同一系統薬剤の連用は避ける。
	つる枯病	6月下旬	少　発 （局中発）	平年：並み 前年：並み	1)敷きわらを行うとともに、過繁茂を避けて、通風をよくする。 2)被害葉を除去し、圃場外で処分する。 3)同一系統薬剤の連用は避ける。
	疫　　病	6月下旬	少　発	平年：並み 前年：並み	1)敷きわらを行うとともに、過繁茂を避けて、通風をよくする。 2)予防散布を行う。
ネ　　ギ	さ　び　病		少　発	平年：少 前年：並み	1)適正施肥に努め、草勢を良好にする。 2)同一系統薬剤の連用は避ける。 3)薬剤防除の際には、展着剤を加用し、葉全体に薬液が付着するようにする。

野菜名	病害虫名	予　報　内　容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
全　　般	アブラムシ類	加害盛期： ６月中旬	少　発	平年：並み 前年：やや多	1)対象作物により薬剤が異なる。
	ヨトウムシ類	加害盛期： ６月中旬	少　発	平年：少 前年：並み	1)対象作物により薬剤が異なる。
	ネキリムシ類	加害盛期： ６月中旬	少　発 （局中発）	平年：やや多 前年：やや多	1)対象作物により薬剤が異なる。 2)平年より発生時期が早まっており、被害状況等を踏まえ早めに対処する。
ウ リ 類	ウリハムシ	成虫加害盛期： ６月上旬 幼虫加害盛期： ６月下旬	少　発 （局中発）	平年：少 前年：並み	1)対象作物により薬剤が異なる。
アブラナ科野菜	モンシロチョウ	加害盛期： ６月中旬	少　発 （局中発）	平年：やや少 前年：並み	1)加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2)対象作物により薬剤が異なる。
	コ ナ ガ	加害盛期： ６月上旬	少　発	平年：並み 前年：やや少	1)加害初期の若齢幼虫期に防除する。 2)対象作物により薬剤が異なる。 3)同一系統薬剤の連用は避ける。
トマト ナス ピーマン	オオタバコガ	加害初期： ６月中旬	少　発	平年：並み 前年：並み	1)果実に食入するため、加害初期の若齢幼虫期に防除を徹底する。

［果樹関係］

果樹名	病害虫名	予　報　内　容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
ナ　　シ	黒 星 病		少　発 （局中発）	平年：並み 前年：やや多	1)同一系統薬剤の連用は避ける。 2)発病部位は除去し、園外で埋設等適切に処理する。 3)枝が混み合っている場合は剪定して風通しを良くする。
	黒 斑 病		少　発	平年：やや多 前年：やや多	1)同一系統薬剤の連用は避ける。 2)発病部位は除去し、園外で埋設等適切に処理する。 3)枝が混み合っている場合は剪定して風通しを良くする。
	赤 星 病		少　発	平年：並み 前年：並み	1)同一系統薬剤の連用は避ける。 2)発病部位は除去し、園外で埋設等適切に処理する。 3)枝が混み合っている場合は剪定して風通しを良くする。

ウ　　メ	すす斑病	果実初発： ６月下旬	少　発 （局中発）	平年：並み 前年：並み	1)ネット収穫や晩生品種「新平太夫」など６月下旬以降に収穫する園では、薬剤の使用時期（収穫前日数）に注意し、６月上旬まで薬剤散布を行う。 2)防風垣やウメ樹に適切なせん定を行い、適度な通風を確保する。

［花き関係］

花き名	病害虫名	予　報　内　容			防除対策および防除上の注意点
		発生時期	被害程度	発 生 量	
キ　　ク	白さび病		少　発	平年：少 前年：並み	1)羅病株が周辺への伝染源となるので、抜き取り処分する。 2)日当たり、風通しを良くする。 3)同一系統薬剤の連用を避ける。
	アブラムシ類	加害盛期： ６月中旬	少　発	平年：並み 前年：やや多	1)同一系統薬剤の連用を避ける。 2 圃場周辺の除草に努める。
	オオタバコガ	初発期： ６月中旬	少　発	平年：並み 前年：並み	1)若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2)圃場周辺の除草に努める。
	アザミウマ類	加害盛期： ６月下旬	少　発 （局中発）	平年：並み 前年：やや多	1)若齢幼虫期までに防除を徹底する。 2)圃場周辺の除草に努める。 3)早期発見に努め、密度の低いうちに薬剤防除する。